



集落支援だより

こんにちは。厳しい寒さが続く季節となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

今回は、降雪前、晩秋の時期に行われた主な活動をご紹介します。(写真は、呼賀自治区の収穫祭で行われた餅つきの様子です。初体験でした！)



地域おこし協力隊 集落支援担当

ひろた しゅんき
廣田 旬紀 隊員

秋の総仕上げ！ 堰ざらい人足

冬が本格化する前の11月中旬から下旬にかけて、町内各地の集落では、水路に溜まった土砂や落ち葉を片付ける「堰ざらい（堰上げ）」人足が行われました。この作業によって、雪解け時の水路の氾濫や破損のリスクを減らし、春の作業の負担を軽くするそうです。

何より、人足は集落の人達や親戚同士が顔を合わせる貴重な時間。単なる地域維持の作業にとどまらず、集落の連帯感を育み、つながりを感じさせる大切な場でもあることを改めて実感しました。

11月16日には、上谷地区の人足に参加しました。ここでは、程窪・泥浮山・長桜の3自治区が合同で作業を行っており、約4kmの道のりを一斉に進みました。作業の間には参加者の皆さんに話を伺うことができ、今後の活動の参考になる大切な対話の場にもなりました。



▲ゴールの長桜まで約4kmの登り道をひたすら進む！

こうした地域の営みに寄り添い、住民の皆さんと時間を共にしながら、次の課題や展望を一緒に考えていくことは、私たち集落支援の活動の大きな柱のひとつです。

新たな試みも！ 奥川秋の人足イベント

11月30日、恒例の奥川人足イベントが、奥川地域づくり協議会主催で実施されました。今回は中町・下松の2自治区に分かれての作業。おなじみの福島大学岩崎ゼミの学生をはじめ、さまざまな立場の人達が参加し、作業や食事を通して交流を深める姿が見られました。

また今回は、毎回参加している岩崎ゼミとの「新たな試み」がありました。前号の本コラムにて紹介があった「出前講座」にて、西会津のことを知りたくて、西会津の学生を対象に、ツアー形式のフィールド学習を実施。人足の前日、「限界集落」「景観保全」「田舎とアート」「山間部の農業」など、さまざまなテーマにつながる場所を巡り、多角的に学んでもらいました。

普段の訪問よりも濃い対話が生まれ、私たちだけでなく、地域の皆さんとも関係が深まりました。それもあって、翌日の人足イベントでは学生たちの意気込みもひとしお。寒い晩秋にも負けず汗を流して励む姿が印象的でした。

この試みを通じ、同じ外部からの受け入れであっても、現地でのアテンドの濃さによって、その後の関係性や地域の印象が大きく変わるといふ、ある意味当たり前のことを改めて実感しました。疲れただけやって良かった！

より深く、西会津。

早くも任期1年目が終わろうとしています。活動も少しずつ主体的に取り組めるようになり、地域行事や人足作業への参加を通じて、自分なりの活動の取り組み方や計画を立て、それに沿った関わりを試みているところです。

もうすぐ今年度も終わります。まさに「光陰矢の如し」。時の経過が儂くもありますが、それだけ西会津での生活が充実しているのかな、と思います。来年度も引き続き集落支援活動の深掘り、拡大の両面を意識して、地道に邁進していきます。そこには、新たな発見・経験が待っているはず。それらを糧に頑張りたいです。

